

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ひまわり 組	5 月 22 日 (木)	二子ありさ

● 実施計画

活動テーマ		
河川敷にある自然物を調べて様々な生き物に目を向けよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から虫を見つけて観察したり変わった植物を見つけて遊びに取り入れている。また、「この虫は何を食べるんだろう」「この花なんだろう」と興味関心を寄せる姿が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	河川敷に到着。ポケット図鑑の使い方を 知る。	【環境設定】 様々な虫や植物が探索出来る河川敷での実施。 【準備物】 ・ポケット図鑑 ・虫かご ・採取した動植物を入れるカップ ・カメラ
10:05	探索開始。(虫と植物それぞれ興味がある方のチームに分かれる)	
11:00	帰園	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・様々な虫や花に注目して図鑑で調べたり観察したりして、理解を深めた</p>	<p>「これなんて言うお花」と様々な植物に関心を寄せていた。まだカタカナが読めない子が多い為、「一緒に調べてみよう」と図鑑に同じものがのっていないか促す声掛けを行った。自分が見つけた花と同じものを発見すると「あった」と目を輝かせていた。</p> <p>ダンゴムシを観察していた子は、ポケット図鑑に定規が付いていることに気付き自ら大きさを測ろうとする姿があった。定規を見て測ってみようとした探究心を認め、一緒に測って共感する関わりをした。</p> <p>「へびいちご」に興味津々の女の子数名がいた。最初は名前も知らず採取していたが、図鑑で調べたことを促すと名称を知ることができた。名前を知ってからは、知れたことが嬉しかった様子で何度も言葉にしていた。また、探求心も高まり「潰してみたらどうなるんだろう」「においを嗅いでみよう」とへびいちごについて深めていた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちの何気ない疑問や呟きに着眼点の柔軟さを感じた。</p> <p>・子ども自身から出た疑問や「やってみたい」意欲を汲み取ることで、いつも以上に意欲的に挑戦する姿があった。</p>	<p>・短時間の中で子どもの興味や関心を深められるような働きかけや、活動を提案して探求プログラムへ意欲的に取り組んでいて良かった。</p> <p>・戸外遊びの際にも草花に興味を示す子どもたちが多く見られていた事から、その草花について室内でも探求を深め、写真と本物を見比べたり、その草花の同じ種類の草花を調べたりと様々な方向へ広げられるとさらに良いと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ひまわり 組	7 月 22 日 (火)	二子ありさ

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~水~ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>気温が上がり、水遊びや水浴びをして水の心地よさに触れ合う中で、水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもっている。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:40~10:50	<ul style="list-style-type: none"> 水とは何かを問いかける。 子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 安全に探究できるよう環境を設定する。 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:50~11:00	<ul style="list-style-type: none"> 水を水槽やコップに入れて観察してみる。 さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。 水の流れを探究してみる。 	【活動使用教材】 <ul style="list-style-type: none"> 水 透明のプラスチックコップ さまざまな形の容器 (皿、コップ、袋など) ホワイトボード ホワイトボードマーカー
11:00~11:05	<ul style="list-style-type: none"> 探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 水の性質について確認する。 	【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> 水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「シャワーで使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、においや流れ、三態と状態変化などを通じ振り返って探究を深めた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水色って水の色とは違う。なんで絵具はこの色なんだろう?」「水は透明で色がない」 ・「水って形ない!」 ・何度も水を流しては道を変え、「どうしたらうまく流れるか」を試行錯誤していた。 ・発見を友達に共有する姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね!なんでそうなるんだろう?」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・「なんで?」「どうしてこうなるの?」といった自発的な疑問が自然と生まれる環境を用意することで、探究心がどんどん引き出されることを実感した。</p> <p>・子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まる手応えがあった。</p>	<p>水という身近なテーマを通して、子どもたちが多様な視点や感覚で探究を深めていることがよく伝わってきます。日常生活の経験から「水は形がない」「水色は絵具の色と違う」といった発言が生まれ、それぞれの気づきを共有し合う姿は、主体的に考える力が育っている証だと思います。保育者が「なんでそうなるの?」と問いかけを重ね、一人ひとりの視点や感じ方に丁寧に寄り添いながら考察を促している点も素晴らしいと思います。試行錯誤しながら水の流れを変えてみる活動は、問題解決力や協働性も育む貴重な経験になっていると思います。子どもたちの「なぜ?どうして?」がこのわくわく探究活動の醍醐味だと思うのでさらに広げたり、深めたりしてほしいと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ひまわり 組	10 月 15 日 (水)	二子ありさ

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 色について知ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>日常の自由遊びでもぬりえやお絵描きなど「色」に触れる機会が多い子どもたち。色鉛筆を重ね塗りしたり絶妙な色の変化にもよく気づく姿が見られる。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろおに」をして、保育室にどんな色があるかを探す。 ・「色」について触れた後で12色の画用紙から好きな色を選ぶ。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・12色の画用紙 ・赤青黄紫白黒などの原料の写真 ・色彩心理学、寒色暖色中性色の色見本 ・事前にとってきた自然物 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12色の画用紙を切り分ける ・身近な色の原料を戸外で採集しておく
10:10～10:20	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてその色を選んだのか」「どんなところが好きなのか」を発表し合う。 ・色の原料についてクイズをする。簡単に色彩心理学について説明し、原料や色彩心理学、寒色暖色中性色について知る。 	
10:20～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に子どもたちと拾ってきた自然物から色を出してみようと提案する。 ・予測を立てながら、白画用紙にこすりつけて色を出していく。 ・こすった色が画用紙のどの色に近いかわ自分で考え同じ画用紙に貼る。 ・友だちと見せ合い、活動を振り返る。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・「いろおに」を通して、身近な「色」について関心を持つ。 ・好きな色について具体的になぜ選んだのか、どんなところが好きなのか発表する機会を作ることで、自分の意見を言葉にして表現する力を養う。また、同時に友達の意見を聞く力をつける。 ・色の原色や色彩心理学についてのクイズや説明をうけて知見を広げる。 ・身近な自然物を使って何色になるのか実際に手を動かすことでより深い探求を促す。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒色暖色中性色についての話をすると「緑ってなんか気持ちいい」「黄色ってあったかいよね」と、子どもたちそれぞれの感性で表現をしていた。 ・好きな色についての発表を行うと「白はウエディングドレスの色だから好き」「ピンクってかわいい気持ちになるよね」と好きな理由についても詳細まで言葉にしていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なもの「色」が結びつくように、いろおにや自然物の採取を行った。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気なく遊びに取り入れているぬりえや玩具にも様々な「色」との関わりがあり遊びの中で子どもたちの中で吸収しているものが多いことに気づいた。 ・自分の好きな色や、気づいたことの発表を行う中で、具体的に自分の気持ちや意見を言葉にする力が育まれていることを感じた。 	<p>日常の遊びの中で自然と触れている「色」に着目し、あらためて“色の違い”や“好きな色の理由”を意識しながら表現する姿が多く見られたのではないと思う。子どもたちは自分の感じた色の心地よさや魅力を、言葉や描画を通して素直に表し、その姿から感性の豊かさを感じた。</p> <p>また、「どんなところが好きなの？」という問いかけに対して、自分なりの理由を考えながら表現しようとする姿、思考する力が育ってきていると感じる。ただ色を選ぶだけでなく“なぜその色に惹かれるのか”という背景に気づく経験は、自己理解にもつながる大切な機会だと思う。</p> <p>保育者も、色の重なりや中性色の話題を子どもたちと楽しみながら、興味がより膨らむような関わりをしていたことが伝わっている。こうした丁寧な関わりが、子どもたちの感性や探究心をさらに深めていく土台になると感じている。</p>